

今週のメニュー

■トピックス1

◇SNSタイアップ広報・第七弾

～「キッチンの下にある『見慣れた管』の意外な実力」～

■トピックス2

◇PVC NEWS No.127 号発行

塩化ビニル環境対策協議会

■トピックス1

◇SNSタイアップ広報・第七弾

～「キッチンの下にある『見慣れた管』の意外な実力」～

世間一般の方々に塩ビへの「正しい理解」を深めていただくことを目的として、3年前からSNSタイアップによる広報活動を実施しています。年々読者数は増加しており、昨年は約75万人の方にご覧いただきました。

このたび、6月30日に第7弾となるSNSタイアップ記事を公開しましたので、ご紹介します。タイトルは「キッチンの下にある『見慣れた管』の意外な実力」です。

公開からわずか2週間で約33.4万人に読まれるなど、大きな反響をいただいています。

ご存じのように、SNSは「Social Networking Service」の略称で、FacebookやLINE、X（旧Twitter）、Instagram、YouTubeなどのサービスを指します。これらは家族や友人との交流だけでなく、さまざまなコミュニケーションのツールとして、今や社会に欠かせない情報伝達手段となっています。

そこで今回は、総務省が公表しているデータ¹⁾をもとに、メディア別の利用時間の変化について整理しました。直近10年間のメディア別利用時間の推移を図1に示しました。インターネット（以下、ネット）の利用時間は、新型コロナウイルス感染症が流行した期間に大きく増加し、2021年には長年主要なメディアであったテレビの視聴時間をネットの利用時間が上回るようになりました。情報収集やコミュニケーションにおけるネットの重要性が年々高まっていることが分かります。



図1 メディア利用時間の推移（平日、13～69歳平均）

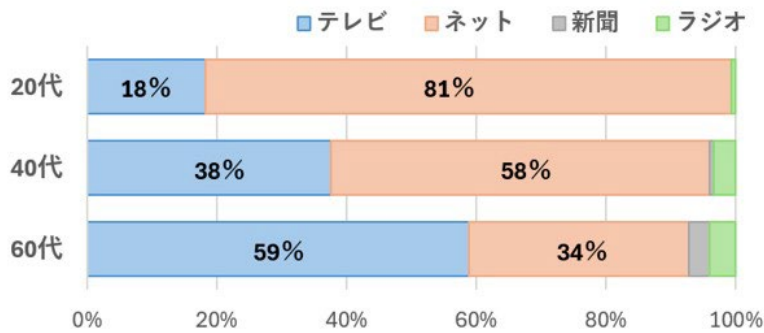


図2 メディア利用率の世代比較

見たいコンテンツだけを視聴する人が増えているとも聞きます。また、60代でさえもネット利用率は34%と高く、ネットは全ての世代において大きな影響力をもつメディアになったと言えます。

塩ビ工業・環境協会では、このようなメディア環境の変化を踏まえ、3年前からSNS タイアップ広報（2回／年）を開始し、今回で4年目、第7回目となります。

今回のSNS 広報のテーマは『塩ビ配管とリサイクル』です。普段何気なく使っているキッチンのシンク。その下にある排水管について考えたことはありますか？今回は、小学生の男の子が「この管は何でできているの？」という素朴な疑問をきっかけに、排水管に使われている塩ビ（PVC）の特徴を知っていく様子を紹介しています。

塩ビ管は①水や薬品に強い、②腐食しにくい、③長期間性能を維持できる、④高い水密性で漏水リスクを抑えられるといった特徴を持ち、私たちの上下水道インフラを支えています。さらに、塩ビ配管は長い年月を経ても物性低下が小さく、約50年間持つと言われてきましたが、塩化ビニル管・継手協会の規格を満たす塩ビ配管は100年相当の耐久性が検証されているとか……。また、廃塩ビ管を再利用した「リサイクル三層管」など、環境負荷を低減する取組みも進められています。普段は目にするものの少ない排水管ですが、実は暮らしの安全や環境保全に大きく貢献している——そんな発見ができる記事です。詳細は下記URLよりご覧ください。URL <https://grapee.jp/2260751> [grapee.jp]



1) 令和6年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書（概要）

塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は、[PVC NEWS No.127](#) 号を発行しました。トピックスはリサイクル塩ビ管のLCA 日本フォーラム奨励賞受賞、JPEC 賛助会員の日本無機薬品協会の紹介、JPEC 協賛企業の住友ベークライト（株）の会社紹介。インフォメーションはプラスチックカードなどを製造する太平化学製品（株）、クリエイティブネットワークセンター大阪（MEBIC）、服飾の世界で塩ビシートを活用する上田安子服飾専門学校の活動などを取り上げています。

インフォメーション① 見事な発色のカラーチップから、新たなセキュリティ対策まで。 素材に向き合い続けて開く未来/太平化学製品株式会社

太平化学製品株式会社は 1908 年創業、1938 年設立。硝化綿を祖業に、硬質 PVC などのフィルムやシート、プレートを製造販売する合成樹脂部門と、高品質なインキやトナー、コーティング材用原料のカラーチップを製造販売する化成品部門の 2 部門を展開しています。埼玉県川口市に本社・川口工場、草加市に草加工場を有しています。

身の回りにあるクレジットカードやビルの冷却設備、マニキュアといった製品の加工品全般を製造しています。競技用ゴーグルの曇り止めシートを日本で唯一生産するなど、戦前から培ってきた技術力と素材への深い知見で、日々の生活から高い水準が求められる環境にまで対応した製品を作り続けています。

同社が最近開発したのが、レーザー発色に対応したカード用シートです。クレジットカードや各種IDカードに使われるこのシート。通常のカードは印刷部を剥がして新しいものを貼り直せば偽造される可能性があります。レーザー発色ではシート内部の層だけを焼き切って情報を書き込むため、改ざんが極めて難しいといえます。このシートは、草加工場で研究、開発、製品化されたものの一つです。



レーザー印字されたカード
細かい陰影で写真も表現できる



照明カバーの加工端材
チップにして再利用

また、同社はリサイクルへの取り組みにも力を入れています。草加工場では、シート成形時に発生する端材を回収・粉碎し、同じ原料として再使用する循環システムを確立し、工場内での廃棄物を削減しています。それだけでなく、加工会社とのリサイクルの取り組みも進んでいます。例えば、クーリングタワー充填材。成形加工時に発生した端材や使用後の部材をメーカーから回収し、再粉碎して充填材シートの原料に戻しています。さらにアクリルの照明カバーでも同様のシステムを運用中です。各形状に抜いた残りの材料を顧客に返却してもらい、工場で粉碎・再生してシートに戻しています。

インフォメーション②「顔の見える関係」にこだわり続けた 20 年。クリエイターのための一大拠点/クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック

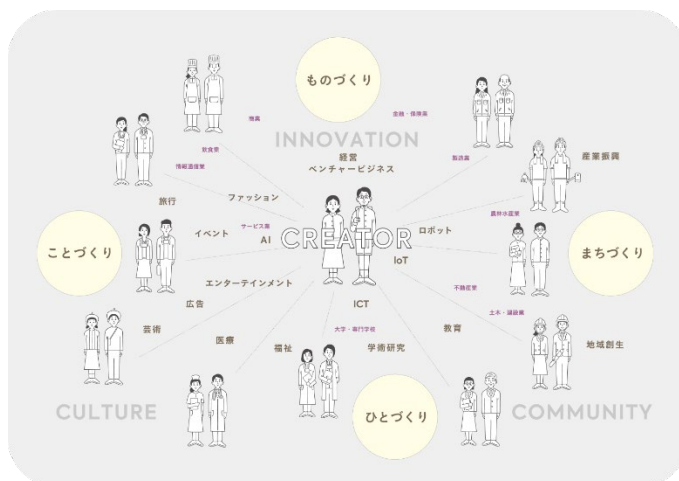
メビックは 2003 年 5 月、大阪市北区の旧水道局庁舎にクリエイター・デザイナー専門のインキュベーション施設として開設しました。現在は大阪市中心部・大阪産業創造館 17F に拠点を置いています。設置主体は大阪市経済戦略局、運営主体は公益財団法人大阪産業局です。クリエイターのネットワークづくり、情報発信、ビジネスマッチング、マネジメント能力の向上を支援しています。

メビックが開設時から貫いてきたコンセプトは「顔の見える関係をつくる」というものです。「フランクにコミュニケーションを取って、そのつながりが結果的にビジネスになっていく」、そんな場の設計に挑んできました。シンクタンク出身で、スタート時よりメビックの所長を務める堂野智史氏にとっては未知の領域への挑戦でした。それでも毎日クリエイターたちのオフィスを一軒一軒周り、地道に趣旨を説明しネットワークの仲間を着実に増やしていったといいます。



堂野所長

しかし、このコンセプトが試練にさらされたのが 2020 年のコロナ禍でした。人と人が顔を合わせるのが核心のメビックに、「密」を避けなければならない緊急事態宣言が直撃したのです。オンラインでの対応を試みたといいます。リアルな場で生まれる関係とは程遠いと感じたといいます。オンラインミーティングではどんなにルームを分けても、せいぜい数人話せるくらいです。ただ、これが逆にリアルな場の価値を再認識した経験となり、その後、世の中でオンラインミーティングが一般化した今でも顔を合わせることにこだわり続ける理由になっています。



メビックの今後について「リアルなコミュニケーションだけにこだわってきたメビックの価値が、AI が発達するほど認められていく気がしています」と堂野氏は晴れやかに展望を語りました。

人と人が出会い、つながりからビジネスが生まれる。そのコンセプトは設立から 20 年以上が経った今、より輝きを増しています。

インフォメーション③塩ビとファッションが交差する場所。「第 157 回 プレタポルテ展」開催 /学校法人上田学園 上田安子服飾専門学校

上田安子服飾専門学校は大阪市北区にある日本有数の服飾専門学校。1941 年の開校

以来、独自のカリキュラム、優れた講師陣、充実した設備でファッション業界のトップで活躍するプロを育成しています。企業と連携したカリキュラムなどを通じて、高度な職業教育も実践している専門学校です。

創設者の上田 安子氏がクリスチャン・ディオール氏から受け継いだ感性や技術を継承しながら、次世代のファッション界の担い手を育成しています。当校が毎年開催している「プレタポルテ展」において、早くからファッションにPVCを取り入れてきました。今年も学生たちがPVCを使ったオリジナルブランド『EDEN01』を立ち上げ、9つの衣装を作り上げました。



当校は、業界との連携教育に力を入れています。PVC業界との産学連携は2011年より継続しており、様々な企業・団体とコラボしながらドレス・レインウェア・チャックノート・自転車用サドルカバー・ビーチサンダルなど多彩なアイテムを手がけてきました。森川ゴム工業所とのレインブーツコラボレーションは7～8年にわたって毎年継続し



ています。透明な塩ビのブーツの内側に、学生がデザインしたカットソー素材をインジェクション成形（射出成型）で一体化させるこの取り組みは、毎年全く異なるデザインに進化し続けています。こうした経験は卒業後にも生きており、当校でPVCコラボを経験した卒業生が就職先でPVCの特性を活かした改善提案をするなど、学生時代の学びが仕事に結びついた事例も生まれています。

私たちの生活を支えている塩ビが環境・社会に貢献している情報を引き続きお届けしたいと思います。PVCNEWSのご講読（無料）を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・電話番号・希望部数をご連絡下さい。よろしくお願いします。

info@vec.gr.jp

（城田）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp